



【論文誌技術解説】

「ELEX ウェブページ再訪」 (ELEX 編集委員長)



佐藤 高史 (京都大学)

会員の皆様には、日頃より ELEX の編集にかかわる活動や運営へ多大なるご協力、ご理解を頂き有難うございます。この場をお借りして感謝を申し上げます。

ELEX (IEICE Electronics Express) は、完全電子版、オープンアクセスの英文レター誌です。電子版であることにより、誌面内の参考文献へのリンクが提供され、また、カラー図面の使用に加えて動画などのマルチメディアファイルの使用も可能となっています。さらに、投稿から判定までができるだけ短期間となるよう、査読期間の短縮に努めており、採録決定後直ちに校正前原稿を早期公開した上で月 2 回の出版を行うなど、電子版の特徴を活かした出版を行なっています。ELEX のウェブページ (<https://www.ieice.org/publications/elex/index.html>) 中央には、早期公開となった論文が随時掲載されています。

ELEX は速報性を重要視するレター論文誌として、査読プロセスを通して良い論文を作り上げることよりも、良い論文を早く世に出すこと、を目的として編集活動を進めています。これを数字で示すよう、ELEX のウェブページの右端には、査読日数および早期公開までに要する日数(中央値)が常に掲示されています。2022 年 9 月時点では、それぞれ 20 日間、39 日間と表示されています。厳格な査読プロセスのもとで、こうした短期間での出版が長期間維持されていることは、ひとえに、編集委員、特別編集幹事、編集幹事、および査読者の皆様方のご努力によるものであり、感謝の念に堪えません。

査読日数と早期公開に要する日数と同じ欄には、月ごとの延べ PDF ダウンロード数があわせて掲示されています。ダウンロード数は月によるばらつきがやや大きいようですが、近年は月当たり 3 万~10 万回のダウンロードがあります。その内訳を見ると、JP ドメイン外からのアクセスが大部分を占めており、JP ドメインからのアクセス数のおよそ 10 倍程度あります。ELEX に投稿されている論

文の国別の著者数を考えると、日本からのアクセスはもっと多くても良いように思われます。また別の見方としては、ELEX の論文は世界からの注目度が高いとも言えそうです。ELEX に掲載されている優れた論文がより多くの研究者、技術者の目に触れるよう、編集委員の皆様と今後一層、努力していきたいと考えています。

また、エレクトロニクスソサイエティの規定集に定められているとおり、ELEX では、前年の 1 月から 12 月までの間に発表された論文を対象として特に優秀な論文を選び、その著者に Best Paper Award を授与しています。ELEX ウェブページのトップページ左上には Best Papers のリンクがあり、これを辿ると当該年度の受賞論文と過去の受賞論文のリストが掲示されています。また、Best Papers のリンクの下には Review Papers と Top 5 Downloads のリンクがあり、それぞれのページでは、ELEX がカバーする各分野の著名な研究者に寄稿いただいたレビュー論文と、月ごとのダウンロード数の多い論文が一覧できるようになっています。各分野における最新の研究動向の調査等に、役立てていただければ幸いです。

本稿をお読みいただいている皆様方におかれましても、是非 ELEX のウェブページを改めて訪れていただき、研究開発活動に役立てていただければと願っております。ELEX ウェブページに関してお気づきのことがありましたら、ご意見をお寄せいただけましたら幸いです。また、ELEX への研究成果の積極的なご投稿についてもお願いいたします。

著者略歴：

2004 年京都大学大学院情報学研究所 博士課程修了。博士(情報学)。日立製作所、ルネサステクノロジ、東京工業大学を経て、2009 年より京都大学大学院情報学研究所教授。2020 年より ELEX 編集委員長。